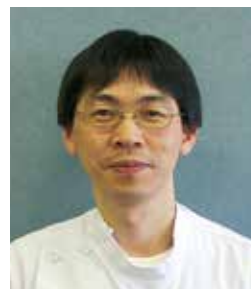


ドクター + 教えて

ご家族と話していますか？

磐田市立総合病院 緩和医療科 なかざわひで 中澤 秀雄



自分が望む治療を実現するためには何が必要でしょうか。最新型の機械でしょうか。最新の薬でしょうか。もちろんそういう面もありますが、一番大切な事は自分の意思を伝えることです。

医療・ケアの選択は、ヒポクラテス（古代ギリシャの医者）の時代から近代までは、医療者の「パターナリズム（温情的父権主義）」でした。これは父親が判断力が未熟な子どもに「〇〇しなさい」と勧めらることに例えられます。今はインフォームド・コンセント（説明と同意）が主流です。医療者から説明を聞き、患者さん本人が受けたい医療を決めます。

ただ、医療について詳しくない患者さんが治療を選択するのは難しいため、「情報共有・合意モデル」が今後主流になると思います。これは医療者と患者さんが、病気や治療ば

りでなく患者さんの背景などを情報共有してから、話し合いで意思決定に至ることです。

本人が話せるときは良いのですが、病状の変化などで自分の意思がうまく表明できなくなつたときには、私たち医療者は家族に聞くこととなります。重要なことは医療者や家族の意思ではなく、患者さん本人の「思い」です。長く生活してきた家族でも、何を考えているか分からないのが普通です。残念ながら「以心伝心」が期待できないことを普段の診療の中で多く見えています。自分はどうしてもらいたいのか、どう考えているか、ご家族と話しておいてください。

ご家族は、患者さんが普段どう考えていたか、どんなエピソードがあったか、私たちに教えてください。本人にとって最善の医療を一緒に考えていきましよう。

命を守るリハーサル

「防災訓練」に参加しよう

（問）地域づくり応援課

☎ 0538-374751
FAX 0538-3212353

大地震などの大規模災害が発生したとき、行政や消防、警察などの力だけでは十分な対応ができません。被害を最小限にとどめるため、「自分の身は自分で守る」、「自分たちの地域は、自分たちで守る」という心構えが、災害に強い地域をつくりまます。

9月3日(日)をはじめ防災週間や前後の土・日曜日などに、各自治会（自主防災会）で実施される「防災訓練」に参加し、家族や近所で防災・減災について話し合いましよう。

防災訓練で大事なこと

- ① 家庭での防災対策（自助）
 - ・身の安全の守り方
 - ・避難場所およびその経路の確認
 - ・非常持ち出し品の確認 など
- ② 地域での防災対策（共助）



黄色いタオルで安否確認



自主防災会での情報収集



住民による救助救出

- ・安否確認
- ・被災情報の集約
- ・初期消火・救出 など

阪神淡路大震災では、救出された人の約7割の方が家族や自主防災組織などの身近な人たちによる救助であったという調査結果があります。自主防災会の活動として、発災直後の安否確認や救助救出などが大変重要です。

ホットラインに登録を！

携帯電話やパソコンのメール機能を利用して、防災情報などを配信しています。災害時には、避難所の開設状況、避難勧告などの重要な情報も配信します。また同報無線の内容をメールで確認することもできます。自ら情報を得るためにぜひ、登録をしましよう。

くらしの
情報